

# 2017 東日本震災復興

活動日記!

## 応援ボランティアツアー

平成29年 9月9日(土)~13日(水)



1 班





# 1日目 9月9日(土) 事前学習会



当時被災地  
双葉町から埼玉県加須市  
へ避難された  
鷗沼久江さんに講話  
していただきました。

4P-にある2の心の準備をする  
貴重な時間となりました!

震災から6年以上  
経つ今でも風評被害  
が蔓延しているという事  
を体験を元に語って  
くれました。その話の中  
でも特に印象的だった  
のが、頭を下げた事で  
久江さんが語った



「福島の人を怖いと思わなくてほしい」という言葉でした。  
その一言はしっかりと風評被害の現実を強く訴えて  
いた様に感じました。(芦久保)

厳しい現実の中で強く明るく生きて久江さん  
にパワーをもらいました!

仮設住宅





# 2日目 9月10日(日) 南相馬市 小高区

小高区の現状や、行政の  
 取り組みについて話をしました。  
 小高区では、50%が65歳以上  
 と高齢化が進んでいる中で  
 人口の8000人のうち約2000人  
 しか戻っているという現状  
 がわかりました。そんな中で  
 地域のコミュニティー  
 再生を全市で取り組んでいること  
 がわかりました。(塩原)



小高区役所職員 土村さん



山崎さん  
 知らないことは武器だ  
 と話してくれました。  
 知らないことは耳が痛いこと  
 ではなく、伸びしろがあるこ  
 いろと頑張るよ(長澤)

私たちに笑顔の  
 向かい話をしてくれました。  
 今度は双葉旅館に  
 お礼の手紙を送りたいです\*



双葉旅館の女将さん 小林さん



# 除草活動

14日-初めてのボランティア活動です!



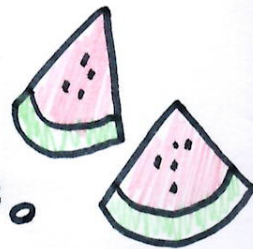
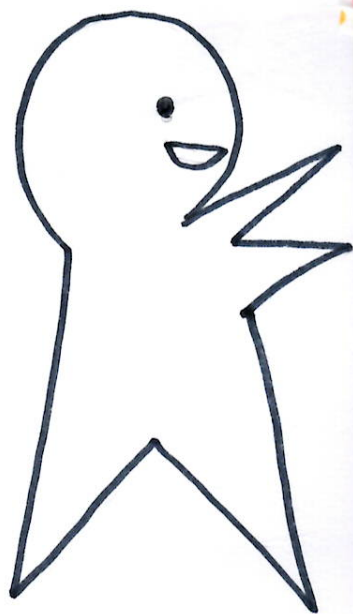
小高区役所付近の公園にて除草作業をしてきました!

少いながらも遊ばせられる空間はぜひうれしいです。



区役所の近く  
なのに雑草が  
たくさん生えていて  
驚いた。(苦笑)

これは何のために?



作業休憩中にはひろはたさんからスイカを頂戴しました。  
最後にはお疲れの握手をして下り、小高の元気な公園を  
分けてもらいました! ありがとうございます!!



民泊 ~かごごるま~

西沢さん夫婦宅にお世話になりました!!

豪華な絶品な料理に感動  
でした!!



見た目もステキな  
コーゼリー♪



たね  
食料加工  
でかき  
いるむす00

和食の和食物や グラタンの中は  
和食の和食手料理!!



育っている野菜を  
料理に活用  
していた手料理!!

家族がステキな夫婦で可也



夫婦共に料理が上手  
上手でした♪





震災当時やそのまでの貴重なお話をしていたはずなんです!!

引越して4ヶ月で被災したのにも関わらずボランティアのために民泊を開いたというのはすごいことだと思った。

今は趣味を

楽しんでいろいろできるが震災からの数年間は、地域のボランティアに参加して助け合っていたと語っていました。

宿泊士として貴重なお話を聞けたりすることができました。

(塩原)

(芦久保)

波の音が聞こえてきたら、おどろかされたこと、



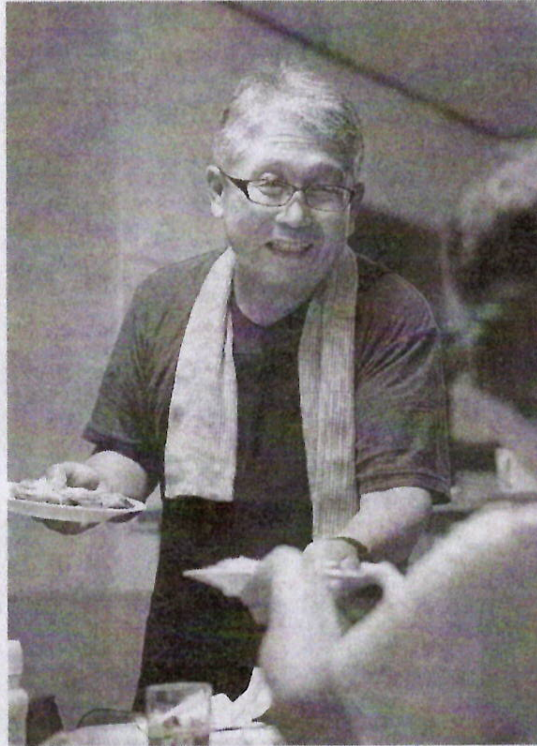
慰霊碑

## ひらく地平

南相馬市発

「趣味の野釣りをのんびりもっていた。料りカーを退職して、西沢式夫(にしざわいつお、66)、かづえ(63)夫妻が栃木県那須塩原市の自宅を処分し、福島県南相馬市に移住したのは2010年11月。転居直後に3・11

# 第二の人生「復興の宿」



開業した民宿で夕食の準備をする西沢さん(福島県南相馬市)

## 田舎暮らしの夢超え

いすみかに決めた。転居して4カ月後に津波の浸水域を確認し、最後の転居して4カ月後に「3・11」が襲った。2居の候補地として迷った入などのボランティア人は宇都宮市にアパートを借りて避難。「自給自足の物件は流され、多くの物件は失われた。縁あり、住民は不自由な暮らしを強いられていた。被災者の話し相手になった。残心配して反対する知人もいたが、2カ月後にはがれきに覆われた南相馬に戻ってきた。

津波の浸水域を確認し、最後の転居して4カ月後に「3・11」が襲った。2居の候補地として迷った入などのボランティア人は宇都宮市にアパートを借りて避難。「自給自足の物件は流され、多くの物件は失われた。縁あり、住民は不自由な暮らしを強いられていた。被災者の話し相手になった。残り、気持ちよくつづける。そこで昨年5月、ボランティアが寝泊まりできるよう自宅の一部を改装し、行政の許可を得たうえで民宿を開業した。

「かきくま」を運営した。若いボランティアから「福島のお父さん、お母さん」と呼ばれる」と笑った。地元で畑仕事に汗を流す。ナス、キュウリなどの夏野菜が終わり、今は春菊などが旬。これから白菜、大根を作付ける。収穫した野菜は安全性を確認し、宿泊者をもてなす食卓にのぼる。

調理は夫妻で分担する。西沢は退職後、専門学校に通って調理師免許を取得。一時、那須塩原市でイタリアンの店を開業した腕前だ。洋風の皿

「今は、全国から来るボランティアから「福島のお父さん、お母さん」と呼ばれる」と笑った。居間には、彼らからの礼状や記念写真がいっぱい飾られている。多くのボランティアが、これまでの人生の来歴を夫妻に語り、「被災者から生きる勇気をもらった」と感謝の言葉を口にしてこの宿を去る。

彼らが残すメッセージは、「私たちが南相馬で生きていく支えであり、宝物」という。(敬称略) 文 編集委員 和歌山

←当時避難所となっていた場所にも連泊していたはずなんです。この場所は野球場だったんです。津波はあんなに間に間に到達し食料もなかったんです。



3日目

朝、昼 → 民泊

郷土料理を教えることができました！



鹿の肉も知ってます！！



べんけい煮の材料は、大根、茱萸、酢、砂糖、醤油でとても簡単に作れました。香ば、お酒の保存食と一緒、日が経つほどおいしいですよ！！

その他、煮物やフェーレン、柿の葉巻も頂けました。西沢さん料理の料理はどれもおいしいのでぜひぜひに利用したいです。



是非、またお邪魔したいです！  
ありがとうございました！！😊



西沢さんご無事 ありがとうございました！！



遠藤さんと合流、富岡市内を案内していただき、  
 夜には当時の今に至る様々なお話を聞いていただきました。



当時 地震が発生し津波の危険がある中、市民、沿岸部の住民の避難誘導を優先し、多くの人の命を救った2人の警官の1台のタクシー。

2人の警官の生々様と車に乗るにも津波にさらされ津波の威嚇に胸がいたがけいにはなりました。(不記)

## 富岡町視察



震災前の写真と比較しながら案内していただきました。

道路各一本の帰宅解除エリアである地域(道路左)と未だに帰宅困難なエリアである地域(右)に矛盾とどこか納得のつかないところを感じました。



# 遠藤 工士の講話



当時の写真とフィルムを用いた  
わかりやすい資料を用意していたのが  
手紙だ。

遠藤 工士自身の話を聞いた  
説明に 震災が人々にどう  
影響を及ぼしたのか、そして  
現在はどうなっているのか  
存在している被害はまだに  
残っていることを痛感させられた。

私たちがいまやらなければならないことは？

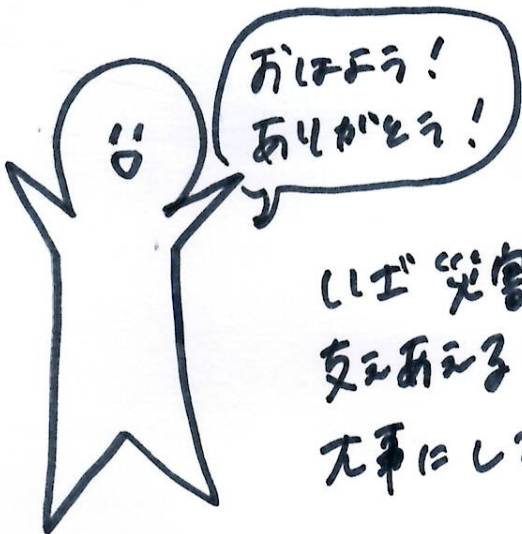
もとの身近なところから始めることが大切だ。



自分と身近な人との繋がり、  
メールコミュニティが  
「生き残り」の大切なキーワード  
になる!!!

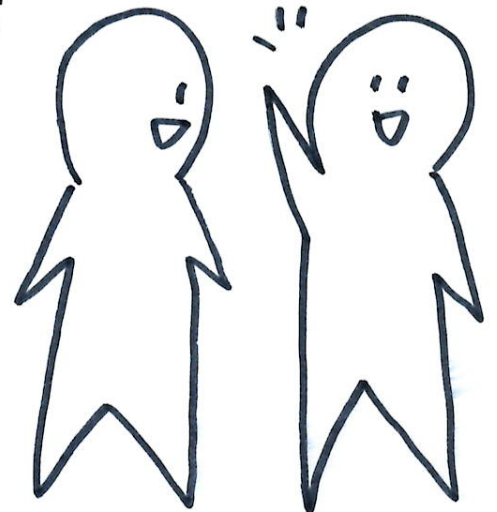
(遠藤 工士の言葉を板書した部分) (色部分)

ボランティアとして何ができる、私達が互いに支え合えるように  
何ができるかと工士が考えたことがあり、そういうあたり前のことで  
どうやって身近なところから始めることが大事なのだとわかった。



いざ災害等の危機がおとつた時  
支えあえるメールコミュニティを  
大事にしてほしいですね

人は顔合わせを  
106回もしている  
らしいんです!



何となく  
いそがしいか...?

ボランティアとして自分を認めさせる  
きっかけとなりました。



# 遠藤さんの講話を聞いて：感想

- ・ 遠藤さんの話の中で「みんな人間をよぶ家畜になつていよう」という言葉が印象に残りました。避難解除された地域でもお祭り人がいかに震災前のような元気を取り戻しているのを見ていかと思いました。  
 それから子供たちや高齢者、様々な人が笑顔で生活を送っている姿に私たちも何かはなりたいですね(先導)



復興という言葉はよく聞きますが現状は復興といふほど遠いものですね。現地の人にはどう思うのか、何かに何かを感じたのか、おどろいたのかな...



自分の家に帰れない、という感じがどういうものなのか、帰れなくても手配りに人がいていていいという感じがどういうものなのか、今度は百七歳の方の気持ちや考えを聞いてみるのもいいかな、と手配りした。

富岡町の視察を通して、「様々な変化」を感じました。「とみおがさくらモール」がオープンしたり、帰還困難区域の一部が解除されたりと、一步一步前進していることが分かりました。

ただまだ全域解除ではないため、解除されていない方々の帰還は時間がかかると思います。

道路を一つ挟んだ所が帰還困難区域ということにおどろいた。

帰りたくても帰れない現状があることが分かった。



4日目

朝食～非常食～

非常食には心も元気をたらしめてしまえる  
おいしい非常食の楽しい食事をとる  
最近では  
デザートも  
あると嬉しい!!  
ニヒル  
不事 2020年



↑  
ピルパ米という  
お米だそうなの。

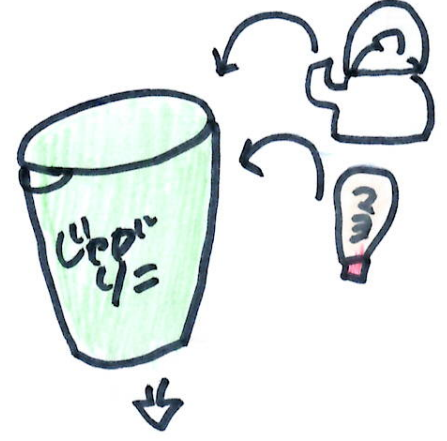
非常食を持ち  
お2食への体験  
をしてみた。  
実際には食べ2枚の  
ニヒルあり手帳。

フリーズドライ製品も様々な  
ものがあり  
いろいろ試してみたい



いろいろな試食を  
つかう2枚の  
仕立てを7枚作り

ピルパ(お米)  
に お湯とマヨネーズを  
混ぜてポテトサラダ(風)  
を7枚作り  
しました!!



ポテトサラダ!!



ふくしま浜街道桜プロジェクト

道の駅 ならは



桜の木のまわりの  
除草活動をして  
ました!!



自分の背たい  
しろいの高工  
雑草に苦戦  
しました!!



30年後の故郷に贈る  
ふくしま浜街道・桜プロジェクト

桜の木を植えました!!

桜の木を植えて  
か見れるように  
がんばりました!!





# いわき市立中央公民館 での講演会



緊急時には  
必要!!!  
セット  
←



館長さんの  
お話し



いわき市での取り組みを視察して、  
被災当時多くの公民館が避難所と  
なったこと、役所でも対応は自前、通常  
業務が行われないうちが大変であったこと  
が分かった。  
身もたれに楽しみながら防災を  
学ぶ取り組みは、すばらしいと思う。

いざという日のために  
備えの大切さが  
大事ですね

ゲーム形式で防災について  
学びました! 知っている方と知らない方が  
身近なものに活用する知識を身につける  
ことができました!



帰りに非常食のお茶を  
いただきました。





# 5日目 広野わいわいプロジェクト

## コットン畑

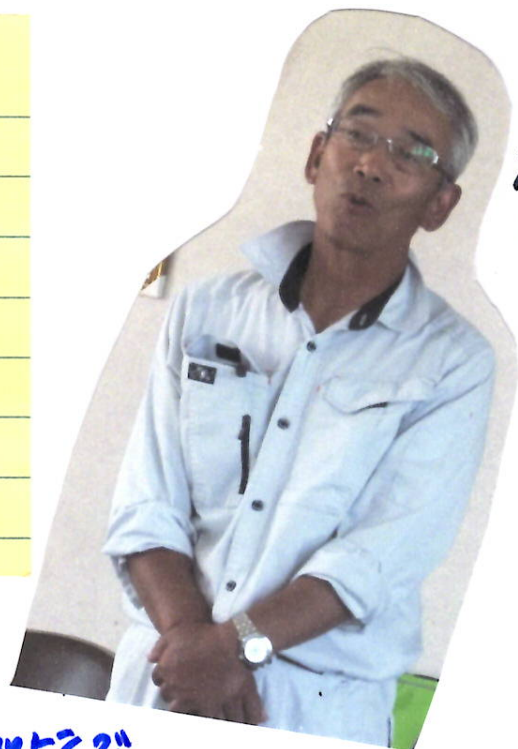


### コットン畑に2 除草活動をしてきました!



残念ながら時期のズレで  
コットンを見ることができませんでした  
立派に育っています

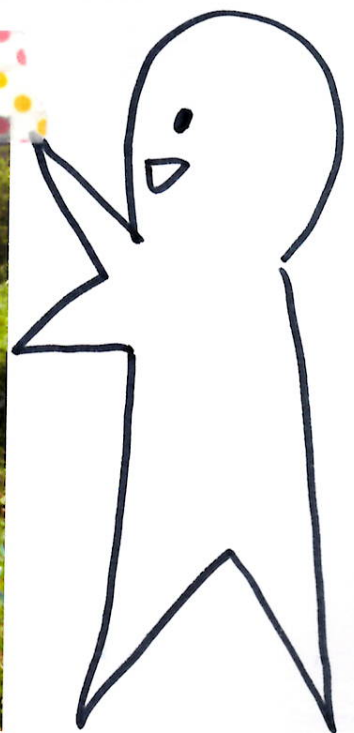
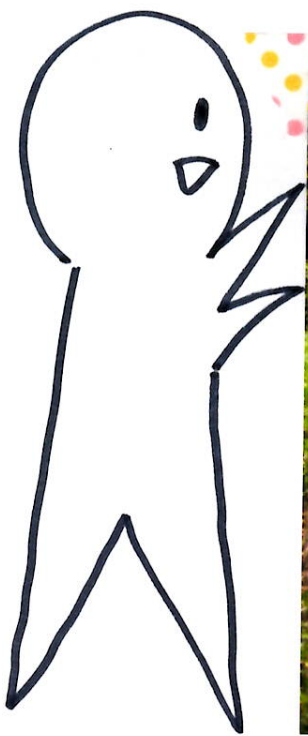
広野町の活性化に向けて  
コットンを育て、やがては町の  
子どもから大人まで老若男女  
参加できるようにしたいという  
「わくわくプロジェクト」  
人々の繋がりを願い、これが  
うも参加したいです。



西村  
俊



コットン畑  
プロジェクトを見せたいので来ました!



広野町の方々に  
お礼を申し上げます  
ありがとうございました!!  
ありがとうございました!!



広野町の案内をしていただけた!!

プロベントウリーがFallin!

記念の日に贈る習慣が  
あるところだ



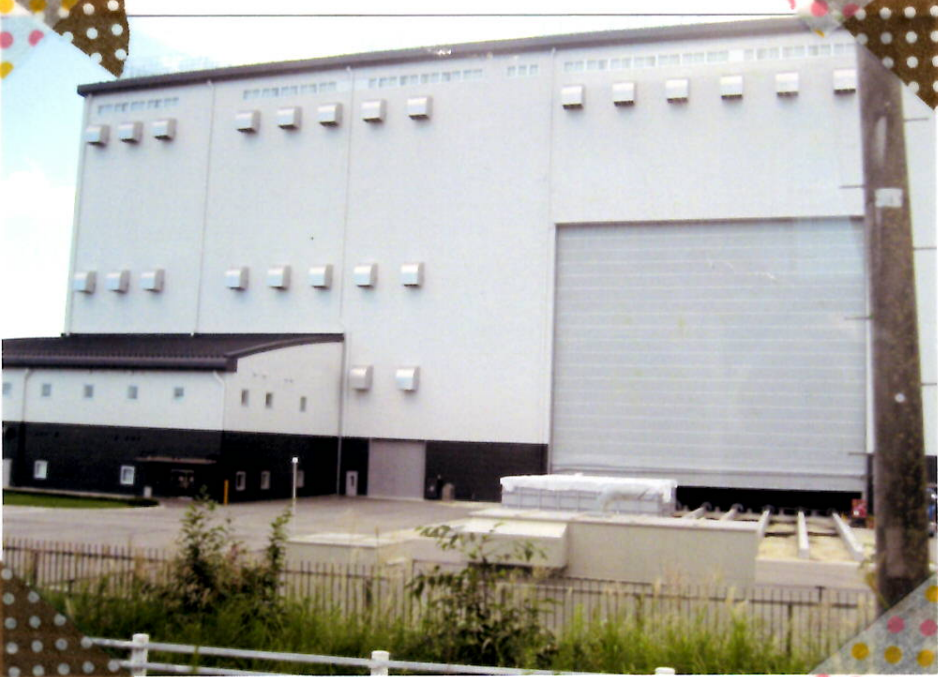
視察を通して ↓

月日が経つごとに  
建て物が増え、1歩1歩  
前進していることが分が  
りました。

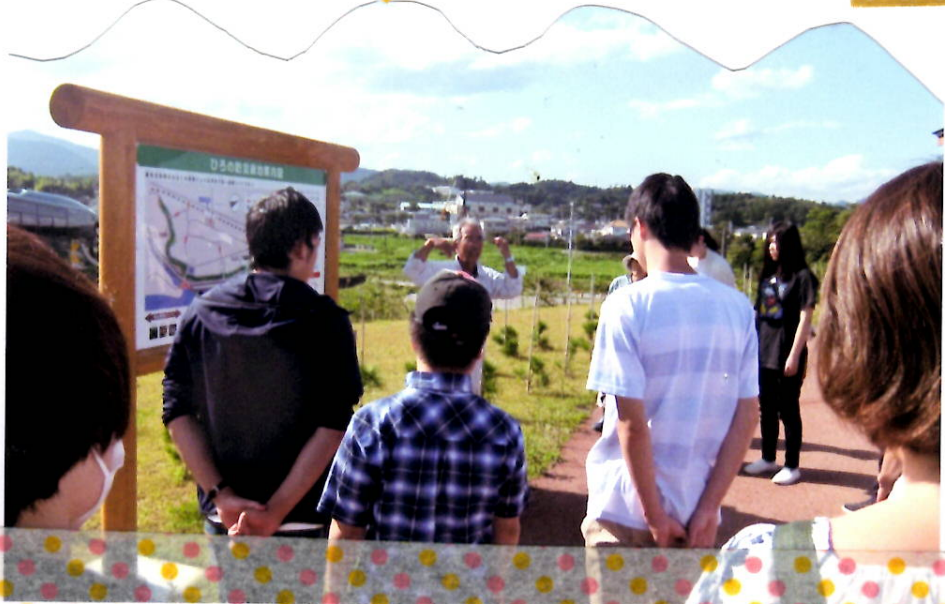
広野の新しい街並みや  
防潮堤などを見てハ  
ード面での復興は

特に進んでいると思われ  
ソフト面においても今後  
人が戻って来て、震災前  
の広野になってほしいと  
思いました。

また被災した当日の話は  
とても印象に残りまし  
た。



LP-全工程  
終了しました!!  
あついで間  
でした ☺





# ツアー全体を通じた感想



いわき市

公民館での防災ワークショップ

## 東日本大震災ボランティアツアーを通して

この5日間で本当にたくさんの方が話をしてくださり、貴重な時間になりました。そして人生で始めて死というものを身近に感じました。それは今だに死んだ被災地の悲慘さを目の当たりにしたからかも知れません。

被災された方が共通して持っていた意思の強さを感じることができました。貴重な体験ありがとうございました。

社会福祉学1年

心理学部 社会心理学科 2年

ツアー全体を通じて地球規模には様々なものを取り組むことがあり、その中で自分も10人10人のものごとく皆が思うのと同じ感じました。ツアー中にはたくさんの方々に当時のお話を聞いていただきました。どれもが被害の大きさと震災の怖ろしさを物語っています。それをも笑顔で向き合っている姿は本当に元気をもらいました。ボランティアというものを私個人に必要と感じるきっかけを作ってくれたことに改めて感謝し、今後の現職でも発信していきたい。自分の身近な人、コミュニティ、そして自身を大切にすることが大切だと思いました。



道の駅で行った桜プロジェクト



かしの  
「奇跡の一本松」

民宿がどろろの西沢  
松は築村の  
いつか  
なれた!



社会福祉学部 社会福祉学科 1年

東日本大震災のボランティアツアーに参加して、震災後の福島県を初めて言われて、少しづつ復興していることが分かりました。たくさんの方のお話を聞いて、たくさんの方が震災前のようににぎわいのある町に戻そうと取り組んでいることが分かりました。今回のツアーに参加していただいたら、私は、現在の福島県を知ることができなかつたと思います。まだまだ完全に復興しているわけではなと思うので、震災以前よりもっともにぎわいのある場所になり、希望のある明るい未来になればいいと思いました。

本日は2人の方にお世話を下りました。

ありがとうございました

ツアーでは、回数を重ねるごとに道路や金町道、公園等の整備が進み、地域によっては以前より人が増えているところもあり、変化をしている様子を見ることができました。

特に富岡町での変化は著しく、バイクの数も減り、車の数も増えるなど前進をしている様子を見ることができました。ツアー中に以前お世言ちにおたうとも再開できました。中には「お久しぶりです」と声をかけてくれたり、暖かく

歓迎してくれたりしてくれました。そのたびに福島の方々の「暖かさ」を感じました。

まだまだ「復興」に向けては時間がかかると思いますが、でも、一步一步前進しているということは事実だということでもあります。これからも支援していきたいと思っています。

西沢松夫婦は  
郷土料理をふるまってくれた  
手紙



5日間のツアー、  
あんなに短い時間でした。  
夜明けの朝の景色を忘れが  
ないようにしよう。